

微生物が根に共生して生育促進！

作物栽培を助ける“菌根菌”

微生物の力で、農作物がいきいきと元気になり、等級比率も生産性もアップ。そんな理想的な微生物資材がネギ農家の間で話題を集めている。有効な菌根菌を配合した国産資材「育苗用G2」の魅力とは？

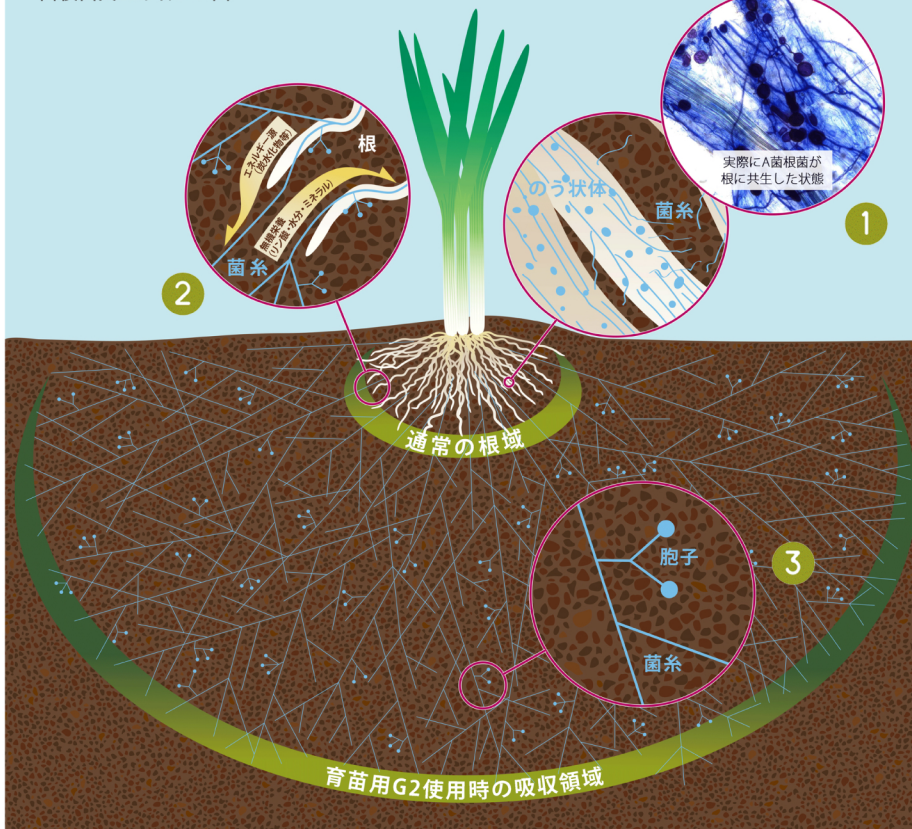
政令指定土壌改良資材『VA菌根菌資材』

(ジーツー) 育苗用G2

NET 1kg・5kg

＼根に共生するアーバスキュラー菌根菌とは？／

菌根菌共生のイメージ図



1 菌根菌が根に共生

共生能力・生育促進活性の高い有用なアーバスキュラー菌根菌（以下、A菌根菌）を選抜して作る「育苗用G2」。施用後、約3週間過程でA菌根菌が根に共生する。写真は、実際にA菌根菌が根に共生した状態。

2 養水分を植物体へ供給

A菌根菌と植物体は共生関係で結ばれている。植物体に、リン酸・水分・ミネラルを供給し、土壤に吸着された難溶性リン酸の吸収も促す。

3 養水分吸収領域の拡大

根に共生したA菌根菌は、菌糸を土壤中に張り巡らせ、養水分吸収領域を拡大。菌糸は、根では吸収できないわずかな養水分もキャッチして吸収する。



有機農産物のJAS表A.1適合資材

地力増進法に基づく表示

土壌改良資材の名称	育苗用G2
土壌改良資材の種類	VA菌根菌資材
表示者の氏名又は名称及び住所	株式会社松本微生物研究所 長野県松本市大字新村2904
製造事業場の名称及び所在地	株式会社松本微生物研究所 長野県松本市大字新村2904
正味量	1キログラム
原材料	VA菌根菌を粘土鉱物などに保持させた物
共生率	10パーセント（ネギ）
用途（主たる効果）	土壌のりん酸供給能の改善
施用方法	標準施用量20～30グラム/リットル この土壌改良資材は、有効態りん酸の含有量の高い土壤に施用しても、効果の発現が期待できないことがあります。 また、アブラナ科、ヒユ科（アカザ科）の植物には効果が発現しないことがあります。
保管条件	密閉して、水がかからない冷暗所（20℃以下）で保管
保存期限	最終有効年月を裏面下部に記載

- この表示は地力増進法（法律第三十四号）第十一条の規定に基づくもので、微生物ではVA菌根菌が初めて認定されました。
- 共生率は、本施行令で指定された試験方法に従って、（ ）内に示した植物に施用方法に示した施用量を使用しVA菌根菌が根の何％に共生できるかを示す値です（根の全体を100％として）。

「育苗用G2」施用例

- ・育苗培土に「育苗用G2」を混和。（施用量：培土1ℓあたり10～20g程度）
- ・苗に「育苗用G2」を散布。（施用量：ネギの場合、苗20枚あたり1kg）散布後は散水して下さい。



「育苗用G2」形状

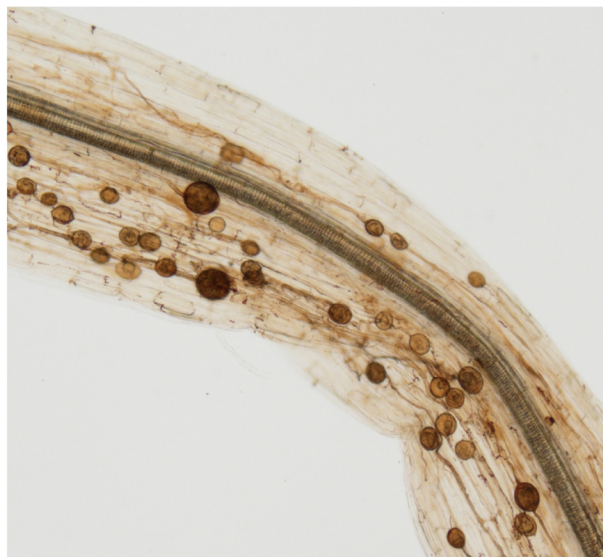


苗に散布する際は、育苗初期で施用することが効果的です。

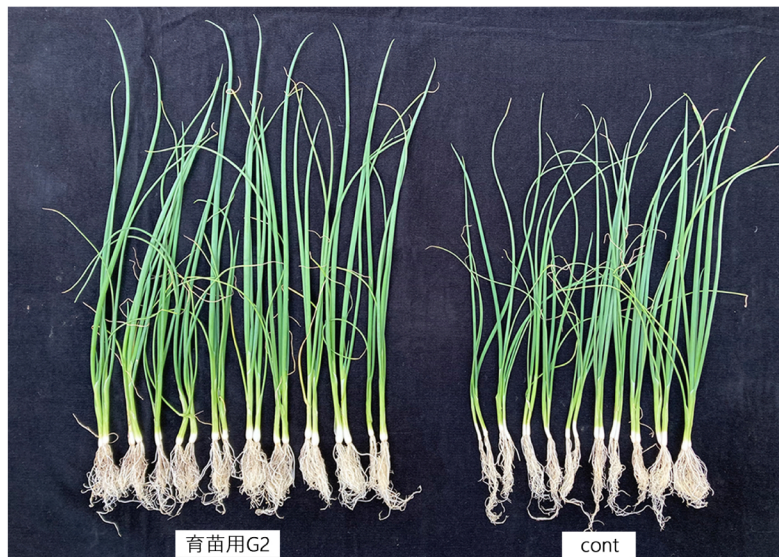
「育苗用G2」使用上のポイント

【期待できる効果】

- ・秀品率向上、生育活性、耐乾性向上などの効果が期待できます。



根内で共生しているアーバスキュラー菌根菌の様子



培土1ℓあたり「育苗用G2」10g混和、60日間育苗した例。

【使用上の留意点】

- ・本資材は、根の付近に施用、または根に直接触れるよう施用して下さい。
- ・ベンレート（殺菌剤）との併用は、共生を阻害するため避けて下さい。
- ・殺菌剤は、菌根菌（育苗用G2）施用から3～4週間経過後は、使用可能です。
- ・リン酸含有量が極端に高い土壌では、効果が期待できないことがあります。
- ・アブラナ科、ヒユ科、タデ科等の植物には効果が期待できません。

【製品の保管】

- ・40℃以上または直射日光を避けて湿度の少ない冷暗所で保管して下さい。
- ・開封後は、資材を残さず使い切して下さい。